

第33号

平成24年12月1日 発行
(偶数月発行/年6回)

七色花

【発行者】

中国・四国中国帰国者支援・交流センター

社会福祉法人 広島県社会福祉協議会

〒732-0816 広島市南区比治山本町 12-2

TEL 082-250-0210

FAX 082-254-2464

E-mail chushikoku-center@festa.ocn.ne.jp

広島県職場見学・交流会

10月3日(水)広島県の帰国者を対象に職場見学・交流会を開催しました。尾道市因島にある万田発酵株式会社では、実験農場や発酵棟などを見学しました。社員から暖かく迎えられ丁寧な説明を受けました。酵素を使って栽培されたジャンボ農産物には驚かされました。「安心・安全・環境にやさしい」という農業や農産物加工への取り組みに帰国者は高い関心を示していました。千光寺公園では展望台からの瀬戸内の景色を堪能しました。帰国者たちは天候に恵まれ、充実した一日を過ごしました。



岡山・広島・香川健康増進交流会

10月22日(月)岡山県・広島県・香川県の帰国者を対象に健康増進交流会を開催しました。それぞれの県から岡山県赤磐市に集まり、グラウンドゴルフを行いました。プレイ参加者が57人もいて進行が大変かと思われましたが、コースが4面もあるなど施設が充実していたことや、当センターの同講座受講生による指導や採点などの協力のおかげで、スムーズに進めることができました。他県の人と触れ合うことができ、天候にも恵まれ、有意義な交流会となりました。



山口県社会見学会

10月27日(土)山口県の帰国者を対象に社会見学会を開催しました。島根県へ出向き、水族館見学と陶芸体験の二手に分かれました。バスの中では、宇部と岩国の帰国者が久しぶりの再会を喜び合いました。親族間でも普段は集まる機会がないため、この交流会で会えるのを楽しみにしている様子でした。また、一人暮らしの帰国者1世は普段は人と話をする機会がないとのこと。年に一回の交流会を楽しみにしていると聞き、今後は高齢帰国者が中心となるような交流会を検討していきたいと思いました。



愛媛県社会見学会

11月10日(土)愛媛県の帰国者を対象に社会見学会を開催しました。徳島県の大歩危峡で川下りを体験しました。帰国者は船上から見る断崖の迫力に圧倒されていました。祖谷のかずら橋は、吊り橋のため、一歩踏み出すたびに大きく揺れました。床板の隙間がとても広く、スリル満点でしたが、全員渡りきることができました。最後に秘境の湯で温泉につかり、リラックスできたようです。愛媛県の帰国者にとっては年に一度の社会見学会ですが、一日で様々な体験ができ、満足された様子でした。



国際交流・協力の日

11月18日(日)広島市で「国際交流・協力の日」が開催され、当センターも参加しました。一般の人にもっと中国帰国者について知ってもらいたいとパネルを展示し、太極拳演武服の試着や中国結び体験を行いました。太極拳演武服の試着コーナーでは記念撮影をする際のポーズを帰国者がアドバイスするなど、交流を楽しみました。中国結び体験コーナーでは、帰国者が身振り手振りで積極的に結び方を教え、出来あがると来場者と一緒になって喜びました。全体の来場者は例年に比べ少なかったようですが、当センターのブースを訪れる人は途絶えることがないほどの盛況ぶりでした。



福岡定着促進センター出身者交流会



宮島にて

10月31日(水)～11月2日(金)中四国ブロックの帰国者を対象に福岡定着促進センター出身者交流会を開催しました。1日目は岡山、香川、高知の参加者が広島へ移動し、宮島を散策しました。2日目からは広島の参加者も加わり、福岡へ向かいました。柳川下り、太宰府天満宮参拝など福岡を満喫しました。3日目は閉所後のセンターを見学しました。老朽化が進み、変わり果てた建物の前でずっと泣いている帰国者の姿が印象的でした。昼食交流会では九州支援・交流センターの夕陽紅歌舞団が様々な演芸で盛りあげてくださいる中、当時の先生方や同窓生との再会を抱き合っって喜びました。先生方は日本語が上手になり、日本の生活に馴染んだ様子の帰国者に安心され、思い出話に花を咲かせていました。



柳川川下り



↑懐かしい看板と共に…



交流会は大盛り上がり！→



今もお元気な先生方

「中国帰国者生活文化作品展」入賞者発表

日中国交正常化40周年、中国残留孤児援護基金創立30周年を記念して、「中国帰国者生活文化作品展」が中国残留孤児援護基金の主催で開催されました。全国の中国帰国者から応募された作品は400点を超え、その中から40点が入選しました。中四国ブロックからは広島県の岩井梅子さん、閻俊玉さん、小川昌夫さん、愛媛県の久米傑さんの4人が入選し、東京で行われた記念セレモニーに出席しました。セレモニーは厚生労働大臣官房審議官や中国大使館公使の祝辞から始まり、入賞者には記念品と賞状が贈呈され、受賞者は晴れやかな表情で入賞を喜んでいました。帰国者のみなさんが持っている特技や才能を発表する場が、今後ますます増えていくことを期待しています。



小川昌夫さんの作品



閻さん 久米さん 岩井さん



岩井梅子さんの作品



久米傑さんの作品



閻俊玉さんの作品

中四国地域の活動報告 ～岡山県帰国者友の会「平成24年度自立促進研修」～

9月30日（日）岡山県帰国者友の会が自立促進研修を開催し、当センターの職員も参加しました。この研修は毎年行われ、今年は150人近い参加者となりました。今回の内容はデイケアについての説明でしたが、帰国者向けの高齢者施設設立の提案などもあり、真剣に耳を傾ける帰国者を目にし、身近な問題としてとらえている様子がうかがえました。県庁職員や支援相談員も参加しており、支援が充実していることを実感しました。



地域で活躍する中国帰国者 ～広島県 向井桂子さん～



帰国者2世の向井さんが、介護職員としての第1歩を踏み出しました。向井さんは、当センターの日本語とパソコンコースの受講生です。前職の退職をきっかけに介護職への転向を決め、ホームヘルパー2級講座を受講しました。受講にあたっては中国残留孤児援護基金の「ホームヘルパー養成及び介護関連資格取得援助事業」を利用し、受講料の一部援助を受けることができました。研修レポートや介護日誌の作成では日本語の面で大変苦労されたそうです。

9月末に就職が決まり、現在は研修中。朝早くから仕事をし、夕方から夜間中学にも通うという超ハードスケジュールにもめげず頑張っています。施設のスタッフや利用者さんとの関係を大事にしなが、日々過ごしているという向井さん。「日本の皆さんにお世話になったので恩返ししたい。」という笑顔がとても素敵でした。

投稿 高知県在住の帰国者 福沢俊傑さんからの投稿です。

『道』

月日は移ろい、歳を重ね、白髪が混じるようになった帰国者は、広島県の帰国者センターの計らいにより、2012年11月2日に旧福岡センターを訪ねた。時が流れて環境も変わり、見渡す限り荒れ果てて、雑草は生い茂り、扉は倒れてガラスも割れ、塵に被われたもの寂しい光景に、涙を禁じ得なかった。20余年の歳月は瞬く間で、人の去った空き家は生気も消え去っていた。塵に埋もれたセンターの看板を抱き起こし、忘れられない思い出とともにカメラにおさめた。これがセンター修了後初めての再会で、あるいは最後の再会になるかもしれない。「夕陽 限り無く好し、まさに 黄昏に近し」という漢詩は悲観的にも思えるが、哲学的には、人生の集大成に向けての激励とも取れる。無限に美しい夕暮れを惜しみ、片時も無駄にせず努力すれば、実り多い黄昏を過ごせるはず。真に無限ですばらしい時を手に入れ、それぞれの人生を歩みたいものだ。



福沢俊傑さん

～センターからの送付物継続希望調査終了のお知らせ～

センターでは「七色花」第30号～第32号の送付時3回にわたり、センターからの送付物継続希望調査を行ってまいりました。同封していたハガキを返信いただいた帰国者の皆さまには各種送付物を引き続き送付させていただきます。なお、来年1月からはハガキを返信されなかった帰国者の皆さまには送付を中止させていただきますので、ご了承ください。

12月・1月の予定

12月7日 東広島・福山社会見学会〔広島県〕 1月未定 日本語講師研修会〔広島県〕

投稿募集

あなたも「七色花」に記事を書かせてみませんか？みなさんからの投稿を募集しています。内容は日々の生活の出来事や中国での思い出、わたしこんな特技がありま～す、など何でもかまいません。原稿は400字程度で、持参、郵送、FAX、メールでお願いします。みなさまからの記事をお待ちしています。

編集後記

突然ですが、みなさんは空を見あげていますか？私は秋から冬にかけて何だかセンチメンタルな気持ちになり、空を見あげることが多くなります。夕暮れ時に西の空が茜色に染まると中国留学中に一人旅に出かけた列車の窓から見た長春のでっかい夕陽を思い出します。中国は広いから夕陽も大きいんだと本気で思いました。

さて、今年も早いものであと1か月となりました。来年もセンター職員は中四国各地を飛び回り、みなさんの笑顔に会いに行きます。健康に気をつけて良い年をお迎えください。（田中）

第33号

平成 24 年 12 月 1 日 发行
(偶数月发行/年 6 回)

【发行者】

中国·四国中国归国者支援·交流中心

社会福祉法人 广岛县社会福祉协议会

〒732-0816 广岛市南区比治山本町 12-2

TEL 082-250-0210

FAX 082-254-2464

E-mail chushikoku-center@festa.ocn.ne.jp

七色花

广岛县企业参观学习·交流会

10月3日(周三)以广岛县的归国者为对象举办了企业参观学习·交流会。这次参观学习的企业万田发酵株式会社位于尾道市因岛,在这里和大家一起参观了实验农场以及发酵室。工厂的工作人员热心的向归国者进行了讲解说明。看到使用酵素栽培的巨大农作物,令人大吃一惊。通过这次参观使归国者高度认识到了日本农业以及农产品加工的「安心·安全·环保」体系。之后在千光寺公园的展望台一览了濑户内海的美景。当天风和日暖,和大家一起度过了充实的一天。



冈山·广岛·香川促进健康交流会



10月22日(周一)以冈山县·广岛县·香川县的归国者为对象举办了促进健康交流会。各个县的归国者一集冈山县赤磐市,进行了迷你高尔夫球大会。参赛者共计57人,当初预想在实施时多少会遇到一些困难,可是球场方面专门为归国者准备了4块球场,再加上中心的学员热心的指导并肩负了计分工作,在大家的大力协助下,整个交流会进行的非常顺利。通过这次交流活动,不仅提高了健康促进,还制造了和他县归国者交流的机会,时逢天气晴朗,可以说是一次非常有意义的交流会。

山口县社会观摩会

10月27日(周六)以山口县归国者为对象举办了社会观摩会。到了岛根县,活动分成参观水族馆和体验陶艺两组。在包车内,宇部和岩国两地区的归国者久后重逢,格外喜悦。平时,即使是亲属之间也难得见面,接着这次活动使大家有了交流的机会。此外,据一位独居的归国者1代说,平时很少有说话的机会,对这一年一次的交流活动每次都抱着极大的期盼,为此中心在今后还需要多多计划以高龄归国者为主的交流活动。



爱媛县社会观摩会



11月10日(周六)以爱媛县的归国者为对象举办了社会观摩会。首先在德岛县大步危峡参加了乘船体验,在船上大家实实在在感受到了两岸悬崖绝壁的气势。之后来到祖谷的蔓藤桥,每向前迈一步,都会导致吊桥摇摇摆摆。吊桥木板之间的缝隙又非常的大,令人胆战心惊,当然最终还是每个人都平安无事的过了吊桥。最后带着大家在名为秘境之汤的温泉名所冲洗掉了一天的疲劳。对于爱媛县的归国者而言虽然一年仅有一次这样的活动,但是在这一天里和大家参加了各种各样的活动,希望大家会满意。

国际交流·协力日

11月18日(周日)由广岛市举办了「国际交流·协力日」,中心借此机会也一起进行了参展。为了让更多的人了解认识中国归国者,在会场上展示了相关的图板,还同时举办了试穿太极拳服装摄影和学做中国结这两项体验活动。每当有来宾穿太极拳服装留念时,归国者就会做示范动作教来宾摆造型,交流场面的气氛非常融洽。在学做中国结时,归国者手把手的教来宾如何做中国结,完成后双方都欣喜不已。全场来宾较往年相比有所减少,可是在中心的专设会场处,来宾源源不断,可以说是大受欢迎。



福岡定着促進中心結業者交流會



宮島一游

10月31日(周三)~11月2日(周五)以中四国地区的归国者为对象举办了福岡定着促進中心結業者交流會。第1天,来自岡山、香川、高知的归国者专程赶到广岛,在宫岛短暂一游。第2天,汇合广岛的归国者,大家一起向福岡出发。这一天体验了柳川乘舟、参拜了太宰府天满宫等,饱享了福岡的美景。第3天到访了已经关闭的定着促進中心的旧址。整个建筑物都已老朽化,看到这面目全非的情景,有的归国者不仅潸然泪下,令在场者怅然不已。这天下午九州支援·交流中心还组织了由归国者主办的夕阳红歌舞团为大家献上各种精彩表演。其间大家共同分享了久后重逢的喜悦。看到大家的日语比从前要流畅很多,并且逐渐适应了日本的生活,这对以前的老师来说是最大的欣慰。



柳川乘舟



↑扶起門匾憶往昔...



交流會的盛況! →



愿各位老师永远年轻!

「中国归国者生活文化作品展」受奖者发表

今年是日中友好建交40周年,又是中国残留孤儿援护基金创设30周年,为此中国残留孤儿援护基金主办了「中国归国者生活文化作品展」。来自全国各地应征的中国归国者作品计400多件,从其中精心选出了40项获奖作品。这期间有来自中四国地区的4名中国归国者,他(她)们分别是广岛县的岩井梅子女士、阎俊玉女士、小川昌夫先生和爱媛县的久米杰先生。照片中的3位参加了在东京举办的颁奖典礼。厚生劳动大臣官房审议官和中国大使馆公使也专程赶来参加了颁奖典礼,并致以祝词。会上向各位受奖者颁发了奖状和纪念品,颁奖时每位受奖者欣喜的表情给人留下难忘的印象。在此,衷心期待今后将会有更多发表归国者才能和特长的机会!



小川昌夫先生的作品



阎女士 久米先生 岩井女士



岩井梅子女士的作品



久米杰先生的作品



阎俊玉女士的作品

中四国地区活动汇报 ~冈山县归国者之友会「平成24年自立促进研修会」~

9月30日(周日)由冈山县归国者之友会举办了自立促进研修会,当天,本中心的工作人员也赶去参加了这次活动。这项研修会每年都会定期举办,今年有将近150名参加者。这次的研修主题是关于日间护理的说明,当谈到计划开设以高龄归国者为对象的养老设施时,内容涉及到大家今后的切身问题,每位归国者都听的非常专注。县厅的工作人员和支援相谈员也一起参加了这次研修会,让人深深感到冈山行政支援的充实性。



活跃于地区的中国归国者 ~广岛县 向井桂子女士~



这次向大家介绍的是归国者2代向井女士,今年她迈出了做为护理人员的第一步。向井女士是本中心日语讲座和电脑讲座的学员。伴随着前一个工作岗位的退职,激发了她转行护理工作的决心,之后她报名学习了家庭护理员2级讲座。关于讲座费用,通过申请中国残留孤儿援护基金的「家庭护理员培训及取得护理关连资格援助事业」的补助,申请到了部分学费。据她本人说,学习期间如何用日语书写研修报告以及护理日记是最令人伤脑筋的事儿。

今年9月末找到了新的工作岗位,现在还在研修期间。工作开始的非常早,到了晚上她还坚持上着夜间中学,一天的日程安排的非常的满,可是她本人仍在孜孜不倦的努力。在工作岗位上,每天都尽力搞好和设施职员以及利用者的关系。满面笑容的向井女士说道「在日本承蒙多方照顾,现在希望多少能为大家尽自己一份力」。



投稿

下面的投稿来自高知县归国者福泽俊杰先生



『路』

时光荏苒,霜染双鬓的归国者们,在广岛中心的精心安排下,于二〇一二年十一月二日再访福冈旧中心。时过境迁,已是满目荒芜,杂草丛生,门倒玻璃碎,灰尘盖地的凄凉景象,禁不住潸然泪下。二十多年的岁月,弹指一挥间,可已是人去房空,全无生机。扶起倒在尘土中的中心牌子,纷纷拍下这难忘的记忆。这也许是唯一的一次面对,也可能是最后的留影。“夕阳无限好,只是近黄昏”似乎是悲观的诗句,可在哲理上是在激励,要珍惜无限好的夕阳,只争朝夕,度过不平凡的黄昏。真正争得无限好的大好时光,走出不同的人生之路。



福泽俊杰先生

~关于希望继续接收来自中心邮件调查终了的通知~

中心自第30号~第32号「七色花」,计3次向各位发出了关于是否继续希望接收来自中心邮件的调查。对将随信一同寄去的明信片邮回给中心的各位归国者,在今后,中心仍继续向各位邮寄来自中心的各种通知和小报。在这里再次提醒大家注意,从明年1月开始,对没有将明信片邮回给中心的各位归国者,中心今后将不再向您邮寄各种通知及小报,恳请各位谅解。

12月・1月预定

12月7日 东广岛・福山社会观摩会〔广岛县〕

1月未定

日语讲师研修会〔广岛县〕

征集投稿

您不希望把自己的文章登载在「七色花」上吗?在此向大家征集稿件,内容不限,可以是日常生活琐事,也可以是追忆往昔,或者是介绍专项所长。原稿的字数限400字以内,投稿可直接送到中心,通过邮寄、传真亦可。

期盼大家积极踊跃的投稿!

编辑后记

非常冒昧的问大家一个问题,偶尔会不会抬头望一望天空?不知道为什么,每逢秋冬我就会有些多愁善感,常常会不知不觉望着天空出神儿。特别是到了夕阳日落,红霞遍染西方整片天空时,就会让人想起当年去中国留学期间,踏上一人之旅,通过列车窗口看到的长春那大大的夕阳时的情景。当时真以为广大中国的夕阳也是格外的大。

时光飞逝,今年还有1个月就要过去了。为了看到大家满面的欢颜,中心的各位工作人员明年还会不停走访中四国的各地区,为此请大家一定多多保重身体,迎来美好的新的一年!(田中)